

早期水稻育苗情報

令和4年12月
北筑前普及指導センター
J A む な か た

床土の準備

① 黒粒培土の場合

- ・床土2.5kg+覆土1kgが目安。
- ・昨年開封した残りは使用しない(カビ等が発生しやすい)。

② 山土の場合

- ・pHが5.0~6.5 (5.0~5.5が望ましい)のものに、籾殻くん炭を容積比で3割程度混ぜる。
- ・1箱当たり4~5ℓ準備し、播種1週間前に育苗肥料4-4-4を混和する。
混和量は1箱当たり30g(600g/20箱)。
- ・休耕田や紋枯病多発田、畑作後の土は使用しない。

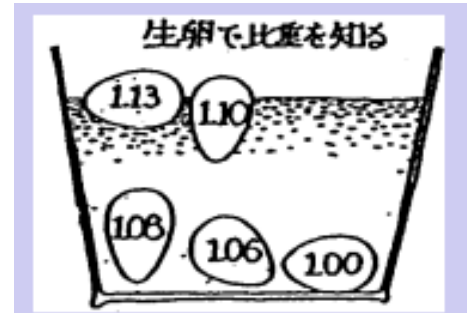
塩水選 購入種子の場合は、比重選別機を通しているため、基本的には塩水選は不要。

塩水選を実施する場合は以下のとおり行う。

- ・塩水選が終わったら、よく水洗いする。

比重	水10ℓに溶かす量	
	食塩	硫安
1.08(うるち)	1.11kg	1.46kg

※海水の比重は 1.03



種子消毒

- ・下記の2つの薬剤混用で、24時間浸漬する。

農薬名	種子	希釈水量	薬量	倍率	適用病害虫
テクリードCフロアブル	10kg の場合	20ℓ	100 ml	200倍	いもち病、ばか苗病他
スミチオン乳剤			20 ml	1000倍	イネシガ、レソチュウ

◎種子消毒後は軽く薬液をきって、そのまま浸種にはいる。

(水洗いはしない)

◎種子消毒、浸種については、籾袋の中心まで薬液が浸透するよう、袋に籾を詰め過ぎないようにする。

浸種・催芽

- ・1日1回、水を交換する(水温が下がらないよう、午前中に行う)。
- ・催芽機利用の場合は浸種初日~2日間は温度を上げない(10~15℃)。その後も30℃を超えないようにする。
- ・浸種に要する日数は6~10日、積算温度(平均水温×日数)で100℃。
- ・播種前日に種子を取り出し催芽処理を兼ねて水切りを行う。催芽は図のようにハトムネ程度が適当である。



床土消毒・播種 薄まきで、丈夫な苗を！播種前の床土はしっかり水やりし吸水させておく。

【苗の種類と播種量の目安】

苗の種類	目標葉齢	播種量/箱		育苗日数	箱数/10a
		乾籾	催芽籾		
3葉苗	2.8～3.2 葉	120g	150g	30～35 日	20 箱
ポット苗	4.0～4.5 葉	45g	55g	40～45 日	35 箱

農薬	使用方法	適用病害虫	使用回数	使用時期
ナエファインフロアブル	2000倍【は種時】 (水10ℓに薬5ml) (0.5ℓ～1ℓ/箱) 1000～2000倍【は種時～緑化期】 (水10ℓに薬10ml～5ml) (0.5ℓ/箱)	ムレ苗防止 苗立枯病 根の生育促進 移植後の活着促進	2回以内	は種時～緑化期
ダコレート水和剤	400倍【は種時～緑化期】 (水10ℓに薬25g) (0.5ℓ/箱)	苗いもち 苗立枯病	1回	は種時～緑化期 (は種14日後まで)

- ・種子消毒とダコレート水和剤灌注を組み合わせると、いもち病に効果が高い。
- ・苗立枯病対策と発根促進のためナエファインフロアブルを使用する。

積み重ね出芽

① 出芽

- ・日当たりの良い場所を選び、りん木を敷きその上に10～15段積み重ねる。シート等で被覆し、低温時はムシロ等でさらに被覆する。
- ★日中、積み重ね内部の温度が上がり過ぎないように、十分注意する！(25～30℃が目安)。
- ・積み重ね日数は3～5日間。芽が出そろったら(芽長 0.5～1cm程度)、直ちに広げる。

② 緑化

- ・黒寒冷紗や黒色ラブシートで覆い、緑化を行う。
- ・ハウス内の温度が30℃を超えないように注意する。
- ・苗長が4～5cmになったら被覆資材を除去する。

平床出芽

- ・播種後、日当たりの良い水平なところに育苗箱を広げ、太陽シート等かける。
- ・育苗箱の下に、パイプ又はりん木を敷くと、過剰の水分を早く取り除くことができる。
- ・降雨、露等で太陽シートの上に水がたまったら、早急に太陽シートをはぐり水を取り除く。(水がたまったところは、出芽不良になる)
- ・ハウス内の温度が30℃を超えないように注意する。
- ・苗長が4～5cmになったら被覆資材を除去する。

硬化

- ・田植え3～5日前にハウス外へ搬出するか、ビニールを除去して外気に慣らす。

【水やりのポイント】

- ・過剰な水やりは根の張りを悪くする。
- ・夕方に水やりすると、夜間に過湿状態となるため、根の張りが悪くなる。
- 水やりは日中に行う。

